

北陸心理学会第 44 回大会

大会プログラム・発表論文集

2009 年 11 月 14 日(土)

金沢大学 角間キャンパス

大会プログラム

会場案内

個人発表、シンポジウム、総会、および、懇親会のすべてが、金沢大学人間社会第2講義棟（教育学部棟）4階の401講義室、一カ所でおこなわれます。最寄りのバス停は「金沢大学」バス停で、角間キャンパス行きの終点となります。また駐車場は、このバス停に隣接するP駐車場が会場に最も近い駐車場となります。

大会スケジュール

| | | |
|--------|-------------------------------|-----------------|
| 受付 | 9:00 ~ 15:00 | 人間社会第2講義棟4階ロビー |
| 個人発表 | 9:30 ~ 12:00 | 人間社会第2講義棟404講義室 |
| 昼休み | 12:00 ~ 13:00 | |
| 個人発表 | 13:00 ~ 14:30 | 人間社会第2講義棟404講義室 |
| シンポジウム | 14:45 ~ 16:45 | 人間社会第2講義棟404講義室 |
| 総会・懇親会 | 16:45 ~ 17:45 | 人間社会第2講義棟404講義室 |
| 休憩室 | 9:00 ~ 17:00 | 人間社会第2講義棟405講義室 |
| 理事会 | 12:10 ~ 13:00 | 人間社会第2講義棟406講義室 |
| 食堂 | 大学会館食堂が11時から13時30分まで営業しております。 | |

受付

非会員の方も当日会員として参加することができます。当日会員として受付にてお支払い下さい。

本大会では、大会参加費の中に懇親会参加費が含まれております。懇親会は、総会后同じ会場でおこなわれます。軽食をご用意しておりますので、総会とあわせてどうぞお気軽にご参加ください。なお、車でお越しの方が多いためと思いますので、飲み物はノン・アルコールとさせていただきます。どうぞご了承下さい。

大会参加費（懇親会参加費を含む）

| | |
|------------|--------|
| 正会員 | 1,000円 |
| 当日会員（一般） | 2,000円 |
| 当日会員（大学院生） | 1,000円 |
| 当日会員（学部学生） | 500円 |

個人研究発表者へのご案内

1. 発表時間

発表1件につき、発表時間12分、質疑応答3分とします。時間経過は、ベルにて合図いたします（1鈴：10分、2鈴：12分、3鈴：15分）。なお、研究発表は、a)発表論文集への論文掲載、b)口頭発表、c)質疑応答、の要件をすべて満たすことにより、公式発表となります。

2. 発表機器について

当日、会場に用意するノートパソコンは、Windows XP PowerPoint 2007です。パソコンの入れ替えをする時間がないので、発表データをご持参ください。なお、Macや他の機器の利用を希望される場合、事前に大会事務局までご連絡ください（yukikoa@kenroku.kanazawa-u.ac.jp）。

3. 発表データについて

発表データはWindows PowerPoint 2007もしくは2003にて作成し、USBフラッシュメモリーやCD-Rなどに保存してご持参下さい。

4. 当日のデータ受付時間

午前の部は9:00～9:20、午後の部は12:00～12:20のデータ受付対応時間を設定し、発表会場に用意するノートパソコンへ発表データをコピーさせていただきます。発表者は必ず対応時間内に会場へお越しになり、データ受付を会場スタッフにお申し付けください。

5. 発表データの取り扱い

コピーさせていただいたデータは、学会終了後、大会事務局にて責任を持って破棄させていただきます。

大会発表賞

本大会では、研究発表の活性化を目指し、はじめて「大会発表賞」を設けます。詳細は以下の通りです。

1. 第44回大会・大会発表賞の対象者について

以下の要件をすべて満たす責任発表者の方が審査の対象となります。

- a) 大学院生であること
- b) 常勤の職（任期制含む）に就いていないこと

2. 審査の方法について

以下の2点から評価をおこないます。審査員は、座長および北陸心理学会役員が担当します。

- a) プレゼンテーション（発表の明瞭性、質疑への応答）
- b) 研究内容（知見の斬新さや重要性、手続きや議論の妥当性）

3. 結果の発表について

シンポジウム終了後同じ会場で引き続き開催される総会において、大会発表賞の受賞者を発表します。受賞者には記念品を贈呈します。

個人研究発表（午前）

時間 9:30～12:00 会場 人間社会第2講義棟4階 401講義室

座長 岡田 努（金沢大学人文学類）・小島 治幸（金沢大学人文学類）

（午前中の個人研究発表は、すべて大会発表賞の対象者による発表となります）

- 9:30 1. 女子大学生のライフコース選択自由記述による探索的予備調査
長谷川千秋（金沢大学大学院人間社会環境研究科）
- 9:45 2. 記憶検索における抑制の解除に対する記憶強度の影響
○松田 崇志・松川 順子（金沢大学大学院人間社会環境研究科）
- 10:00 3. 系列動作課題遂行時における脳機能
○小林 諭史 1)4)5), 松井 三枝 2)4)5), 浦川 将 2)4)5),
高本 孝一 2)4)5), 石川 亮宏 3), 西条 寿夫 2)4)5)
(1)富山大学大学院医学薬学教育部 2)同医学薬学研究部 3)株式会社島津製作所
4)科学技術振興機構 5)JSPS アジア研究教育拠点)
- 10:15 4. 性犯罪被害者への IES-R 日本語版の実施
○花崎 有紀子, 塩谷 亨（金沢工業大学大学院心理科学研究科）
- 10:30 5. 思考制御困難性に影響する因子間の関連の検討
○加々美 智光（金沢工業大学大学院心理科学研究科）
田中 吉史（金沢工業大学情報学部心理情報学科）
近江 政雄（金沢工業大学大学院心理科学研究科）
- 10:45 6. 対人不安傾向が自己関連情報の処理に与える影響
○越野 孝将, 近江 政雄（金沢工業大学大学院心理科学研究科）
- 11:00 7. ストレス対処方略とストレスの程度との関係
○大橋 絵未里（金沢工業大学情報フロンティア学部）
塩谷 亨（金沢工業大学心理科学研究科）
- 11:15 8. 工科系大学生における友人に求める支援の性差
○坂本 有（金沢工業大学情報フロンティア学部）
塩谷 亨（金沢工業大学心理科学研究科）

- 11:30 9. 数概念が未発達の中學生に対する支払い行動の形成
○村上 幸, 井口 彰子 (金沢工業大学心理科学研究科)
石川 健介 (金沢工業大学心理科学研究所)
- 11:45 10. 保育現場における「気になる子ども」の実態把握について (1)
○藤井 千愛 (富山大学大学院教育学研究科)
小林 真 (富山大学人間発達科学部)

個人研究発表 (午後)

時間 13:00~14:30 会場 人間社会第2 講義棟 4階 401 講義室
座長 荷方 邦夫 (金沢美術工芸大学)・井口 善生 (金沢工業大学)

- 13:00 11. 保育現場における「気になる子ども」の実態把握について (2)
○小林 真 (富山大学人間発達科学部)
藤井 千愛 (富山大学大学院教育学研究科)
- 13:15 12. 芸術作品が喚起する感情の構造
殿岡 弘庸, ○荷方 邦夫 (金沢美術工芸大学)
- 13:30 13. 大型化した放射状水迷路におけるコイとキンギョの遂行
○谷内 通 (金沢大学人文学類)
鷺塚 清貴 (金沢大学文学研究科)
山田 祐輔 (金沢大学文学部)
- 13:45 14. ブタのドット数の視覚弁別学習における刺激提示位置の効果
○上野 糧正 (石川県立大学附属経営農場)
谷内 通 (金沢大学人文学類)
- 14:00 15. 欲求性強化結果が呈示された文脈に対するラットの反応
井口 善生 (金沢工業大学感動デザイン工学研究所)
- 14:15 16. 防衛的悲観主義者の帰属スタイルに関する検討
荒木 友希子 (金沢大学人文学類)

シンポジウム

「高機能自閉症スペクトラム障害のある人の理解と治療・支援」

会場 人間社会第2講義棟4階 401講義室

時間 14:45～16:45

企画・司会 大井 学（金沢大学学校教育学類・子どものこころの発達研究センター）

松川 順子（金沢大学人文学類）

シンポジスト 棟居 俊夫（金沢大学子どものこころの発達研究センター）

熊谷 有紀子（金沢美術工芸大学）

高橋 和子（金沢大学子どものこころの発達研究センター）

指定討論者 小島 治幸（金沢大学人文学類）

石川 健介（金沢工業大学心理科学研究所）

シンポジウムの趣旨

今日、自閉症は群を抜く遺伝的要因の寄与の高さゆえに生物学的研究が猛烈な勢いで進行し、バイオロジカル・マーカーの特定から予防・治療が現実化する可能性が浮上しつつある。また近年の激しい社会経済的変動とあいまって、自閉症は幼少期から成人期にわたって社会への不適合の原因となっており、長期的多角的な視点からのアプローチが重要となっている。今回のシンポジウムでは、自閉症臨床の第一線の情報を共有するところから、神経生物学から哲学までの学際的協力の環となりうる心理学の果たすべき役割や課題を考えたい。話題提供の要旨は下記のとおりである。

棟居俊夫 「精神科通院中 20 歳代 ASD 患者の社会適応」

金沢大学附属病院神経科精神科通院中の 20 歳代の 28 名の自閉症スペクトラム障害患者の社会適応を 20-24 歳と 25-29 歳の 2 群に分けると、後者の社会適応が前者よりも有意に良かった ($P = 0.021$)。社会適応は 20 歳代の後半を目指すべきかもしれない。

高橋和子 「高機能広汎性発達障害に対する生涯支援の視点」

高機能広汎性発達障害児者を支援する場合、幼少期から成人後の本人の QOL を視野に入れた体系的な支援が大切になる。支援も子どもの発達に応じて柔軟にカスタマイズする必要がある。本シンポジウムでは、この点について述べる。

熊谷有紀子 「高機能 ASD 学齢児の巡回相談と教師のこころ」

学校教育現場においては、コーディネーターの設置や通級による指導等、校内・外の支援体制は整備されつつある。一方、個々の担任教師への支援はどうであろうか。教師のこころと巡回相談の実際について報告する。

発表論文集

北陸心理学会第 44 回大会発表論文集

2009 年 10 月 16 日

発行者 北陸心理学会第 44 回大会準備委員会

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学人文学類心理学研究室内

委員長 松川 順子

委員 岡田 努

委員 小島 治幸

委員 谷内 通

委員 荒木友希子

代表連絡先：電話(076)264-5316 (荒木)

FAX(076)264-5362

Email:yukikoa@kenroku.kanazawa-u.ac.jp (荒木)